

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

アカガシラカラスバト

Columba janthina nitens (Stejneger, 1887)

川上和人（国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 鳥類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：川上和人，2026．アカガシラカラスバト．環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 68-73．

Citation: Kawakami, K., 2026. *Columba janthina nitens* (Stejneger, 1887). In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 68-73.

アカガシラカラスバト

Columba janthina nitens (Stejneger, 1887)

カテゴリー判定結果		絶滅危惧 I A 類 (CR)		B1ab	
基準 A: —	基準 B: CR	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —	
B1. 出現範囲が 100 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。 a) 生息地が過度に分断されているか、ただ 1 か所の地点に限定されている。 【地点数】1 地点 b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。 【判断理由】 父島におけるカメラトラップの撮影頻度は、ネコ対策が本格化した 2010 年度に比べて 2013-2017 年度には上昇したが、その後、個体数の回復傾向は止まっている。現在父島ではノネコ対策が継続されているが、根絶には至っていない。また、母島では主に集落以南の地域でノネコの排除事業が行われており、北部では不十分である。現在個体数の減少が見られない要因はノネコ対策の実施によるところが大きく、仮にノネコ対策が縮小された場合は、ノネコの個体数が増加し、アカガシラカラスバトの個体数が減少することが予測される。					
評価分科会： 鳥類分科会					

概要

アカガシラカラスバトは、小笠原諸島にのみ分布するカラスバトの固有亜種である。ノネコの捕食圧や、ネズミ類との食物を巡る競争や巣の捕食、ノヤギによる森林の草原化など、外来哺乳類の影響により個体数が減少したと考えられる。特に捕食者の影響を強く受けていると考えられ、父島ではノネコの山域からの排除事業を行った結果、以前より多くの若鳥が観察されるようになったが、個体数はまだ限られており依然として絶滅リスクが高い状態にある。

基礎情報

【形態】

全長約 40 cm、翼長 22-24 cm、尾長 14-17 cm。全身黒色だが、頭から胸にかけて、紫色から緑色の金属光沢を持つ。亜種カラスバトにもよく似るが、本亜種は特に頭部がワインレッドを呈することから区別され、亜種名の由来となっている。脚は暗い紫色。若鳥は頭部から胸にかけての羽毛の赤色及び金属光沢が発達しない。

【生活史】

一夫一妻で繁殖し、1 回の繁殖で 1 卵を産む。タコヅルの下など、茂みの中の地上で営巣することが多い。これは、在来種の捕食者であるオガサワラノスリの捕食圧に対する適応と考えられる。11 月-3 月が繁殖期の中心だが、1 年間に複数回の繁殖を行うこともあり、飼育下では年 4 回繁殖した例もある。基本的に種子または果実食で、アコウザンショウやオオバシロテツ、ガジュマル、シマホルトノキ、パッションフルーツなど、在来種、外来種を含めて様々な植物を採食する。陸産貝類やミミズなどの動物を採食することもある。

【生息環境】

繁殖期には比較的攪乱の少ない自然林に生息することが多いが、湿性高木林から乾性低木林まで様々な環境で繁殖すると考えられる。非繁殖期には森林内だけでなく、集落周辺の草地や農地、公園なども採食場所や休息場所に利用する。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林，草地，田地・畑地 【陸域_平地部】森林，草地，田地・畑地，農業用水路，小河川
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域，(7) 島嶼地域

【分布域】

小笠原諸島の聳島列島、父島列島、母島列島、火山列島の有人島、無人島を含む広い範囲で記録されている。

現在の生息状況

【分布域の現況】

20 世紀後半には父島、母島以外ではほとんど観察されていなかったが、最近では小笠原諸島の各列島の森林が発達した島では広く観察されるようになった。このうち少なくとも父島、兄島、弟島、母島などでは繁殖が確認されており、また北硫黄島や南硫黄島などでも繁殖していると考えられる。色脚環装着個体の観察から、聳島列島から火山列島まで、広く島間移動していることが知られている。

【生息地の現況】

小笠原諸島では、戦前に大規模な森林伐採が行われ、広大な面積が農耕地となっていたが、戦後農地が放置されたため、現在は二次林化が進んでいる。このため、アカガシラカラスバトにとっての繁殖地の環境は改善されてきていると考えられる。全ての無人島でノヤギの根絶が達成され森林の回復が期待されているが、モクマオウやギンネムなどの外来

樹種の繁茂により生息に適さない環境が拡大する可能性もある。父島の山域と母島の南部ではノネコ対策が継続されているが、ノネコの根絶には至っていない。

【個体数の現況】

1930 年頃にはすでに父島、母島、硫黄島ではほとんど観察されないほど個体数が減少していた。1990 年代には、総個体数 40 羽程度とされることもあったが、これは観察個体数からの推定であり、また火山列島における個体数を十分に考慮しておらず、過小評価となっていた可能性がある。以前は若鳥がほとんど見られていなかったが、父島における自然地域におけるノネコの排除の結果、2012 年ごろからは父島、母島を中心に若鳥が観察されるようになり、繁殖成功率が上昇したと考えられる。父島ではカメラトラップの撮影頻度が、ネコ対策が本格化した 2010 年度に比べて 2013-2017 年度には 4.5-13.1 倍に上昇しており、この間に個体数が増加したと考えられる。ただし、その後は個体数の増加傾向は止まっており、火山列島を含めても成熟個体数はまだ数百個体程度と考えられ、依然として絶滅リスクは高い状況にある。

存続を脅かす要因

個体群存続可能性分析から、成鳥の死亡率が個体群の縮小に最も大きな影響を与えていると考えられている。警戒心が薄く、地上で営巣、採食を行うため、地上性捕食者に対して脆弱であり、特にノネコの捕食により個体数が減少したと考えられる。また、外来のネズミ類が種子を巡る競争者や巣の捕食者となっている可能性がある。父島では山域からのノネコ排除が進んだ結果個体数が以前より増えたが、一方で交通事故やガラス衝突による死亡が生じるようになった。島間移動を行うことから、ノネコが生息する硫黄島でもネコの管理を進める必要がある。過去には農地開墾やノヤギ食害による森林の荒廃も個体数減少の要因となったと考えられる。種子食であるため、気候変動による台風や干ばつなどの気象害の大型化で植物に大きなダメージがあれば食物が不足し、繁殖成功率や生存率に影響を及ぼす危険性がある。

要因の区分：	(過去)	森林伐採、捕獲・狩猟/園芸採取、捕食（外来種による）、競争/競合（外来種による）、食用・薬用採取、分布・産地局限
	(現在)	交通事故、捕食（外来種による）、競争/競合（外来種による）、人工構造物への衝突、気候変動、分布・産地局限

特記事項

DNA 分析の結果、亜種カラスバト及び亜種ヨナグニカラスバトと系統的に大きく異なることが明らかになっており、亜種としての保全価値が高いと考えられる。一方、遺伝的多様性が非常に低いことも明らかになっている。また、小笠原諸島の野生下において亜種カラスバトとの交雑個体が複数確認されており、低頻度で自然に亜種間の遺伝的交流が生じている可能性がある。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	アカガシラカラスバト	<i>Columba janthina nitens</i>	CR
第4次 2019:	アカガシラカラスバト	<i>Columba janthina nitens</i>	CR
第4次 2018:	アカガシラカラスバト	<i>Columba janthina nitens</i>	CR
第4次 2017:	アカガシラカラスバト	<i>Columba janthina nitens</i>	CR
第4次 2015:	アカガシラカラスバト	<i>Columba janthina nitens</i>	CR
第4次:	アカガシラカラスバト	<i>Columba janthina nitens</i>	CR
第3次:	アカガシラカラスバト	<i>Columba janthina nitens</i>	CR
第2次:	アカガシラカラスバト	<i>Columba janthina nitens</i>	EN
第1次:	アカガシラカラスバト	<i>Columba janthina nitens</i>	E

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【東京都（小笠原諸島）】絶滅危惧 I A 類(CR)

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

国内希少野生動植物種，保護増殖事業，国指定天然記念物，鳥獣保護管理法

参考文献

- アカガシラカラスバト PHVA ワークショップ実行委員会，2009. アカガシラカラスバト保全計画づくり国際ワークショップ最終報告書. アカガシラカラスバト PHVA ワークショップ実行委員会，東京.
- Ando, H., S. Kaneko, H. Suzuki, K. Horikoshi, H. Takano, H. Ogawa and Y. Isagi, 2011. Genetic diversity of the Japanese wood pigeon, *Columba janthina*, an endemic to islands of East Asia, estimated by newly developed microsatellite markers. *Zoological Science*, 28: 891-896.
- Ando, H., H. Ogawa, S. Kaneko, H. Takano, S. Seki, H. Suzuki, K. Horikoshi and Y. Isagi, 2014. Genetic structure of isolated islands and captive population of the critically endangered Red-headed Wood Pigeon *Columba janthina nitens*: implication on the management of threatened island populations. *Ibis*, 156: 154-164.
- Ando, H., S. Suzuki, K. Horikoshi, H. Suzuki, S. Umehara, M. Yamasaki, G. Hanya, M. Inoue-Murayama and Y. Isagi, 2016. Seasonal and inter island variation in the foraging strategy of the endangered Red-headed Wood Pigeon (*Columba janthina nitens*) in disturbed island habitats derived from high-throughput sequencing. *Ibis*, 158: 291-304.
- Ando, H., T. Sasaki, K. Horikoshi, H. Suzuki, H. Chiba, M. Yamasaki and Y. Isagi, 2017. Wide-ranging movement and foraging strategy of the critically endangered Red-headed Wood Pigeon (*Columba janthina nitens*): findings from a remote uninhabited island. *Pacific Sci*, 71: 161-170.

- 堀越和夫・鈴木創・佐々木哲朗・川上和人, 2020. 小笠原諸島父島における外来ネコ対策後のアカガシラカラスバトの個体数増加. 日本鳥学会誌, 69: 3-18.
- 粕山徳太郎, 1930. 小笠原諸島並に硫黄列島産の鳥類に就て. 日本生物地理学会会報, 1(3): 89-186.
- 関伸一・高野肇, 2005. ミトコンドリア DNA チトクローム b 領域の塩基配列によるカラスバト *Columba janthina* 3 亜種間の系統関係. 九州森林研究, 58: 193-194.
- Seki, S., H. Takano, K. Kawakami, N. Kotaka, A. Endo and K. Takehara, 2007. Distribution and genetic structure of the Japanese wood pigeon (*Columba janthina*) endemic to the islands of East Asia. Conservation Genetics, 8(5): 1109-1121.
- 柴崎文子・星善男, 2006. アカガシラカラスバトは種子散布者 μ m. Strix, 24: 171-176.
- 鈴木創・柴崎文子・鈴木直子・堀越和夫・障子巳和子・障子幹・坂入祐子・高野肇, 2006. 小笠原諸島におけるアカガシラカラスバト *Columba janthina nitens* の島間移動. Strix, 24: 99-107.
- 高野肇, 2002. 幻の鳥はいまーアカガシラカラスバトの現状とその保護ー. 遺伝, 56(1): 92-96.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Columba janthina nitens has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Columba janthina nitens* is listed as CR under criteria B1ab.

B1. Extent of occurrence estimated to be less than 100 km², and estimates indicating at least two of a-c:

- a. Severely fragmented or known to exist at only a single location.
- b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:
 - (i) extent of occurrence
 - (ii) area of occupancy
 - (iii) area, extent and/or quality of habitat
 - (iv) number of locations or subpopulations
 - (v) number of mature individuals

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】 Forest, Grassland, Farmland 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Forest, Grassland, Farmland, Agricultural ditch, Small river
Threat types:	Vehicle collision, Predation (by alien species), Competition (with alien species), Collision with man-made structures, Climate change, Limited distribution
Law designation status for conservation	Nationally rare species of wild fauna and flora. Conservation and reproduction programs. Nationally Designated Natural Monument. Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act.



執筆者:	川上和人 (国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)
Author:	Kazuto Kawakami

公表年月：2026 年 3 月